三島市立図書館　資料ガイド

弥生時代について調べる

2020年12月発行

発　行：三島市立図書館　　〒411-0035　静岡県三島市大宮町 1-8-38　TEL055-983-0880

https://tosyokan.city.mishima.shizuoka.jp/

静岡県は、戦後に登呂遺跡の調査をはじめとする弥生時代研究の口火を切ったことで知られています。当時の生活を知る手だてとして、遺跡の発掘調査があります。

三島市立図書館では、１月 17 日（日）まで、『令和２年度静岡県埋蔵文化財センター巡回展「弥生サイエンスー弥生研究の新たな視点ー」』を開催しています。日本の初期農耕を物語る石器、土器に残った農作物の圧痕、遺跡から出土した木材の種類から見えてくる当時の気候と環境等、静岡県埋蔵文化財センターが所蔵する関連遺物やパネル等を展示しています。弥生時代に関する資料を紹介しますのでご活用ください。

●探し方●

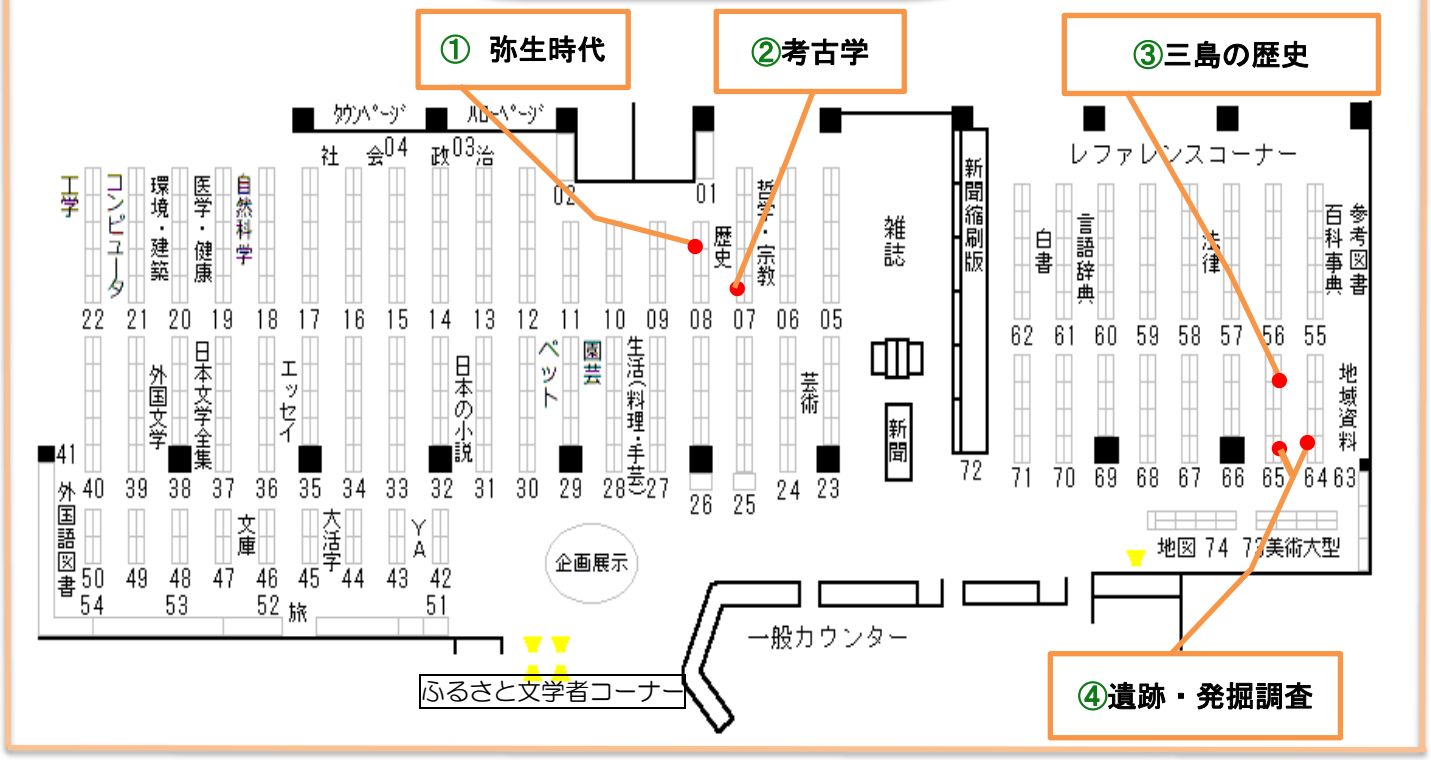
★資料は書架案内図の丸数字の場所にあります。

★資料のある棚を探しましょう。棚番は棚に表示されている番号です。

★資料が置いてある棚がわかったら、資料の分類番号を探しましょう。分類番号は資料の背に貼られたラベル（左のような青い枠）に書かれた数字です。そこで書名を探してください。

210.27

三島市立図書館　書架案内図



令和２年度静岡県埋蔵文化財センター巡回展「弥生サイエンスー弥生研究の新たな視点ー」

【開催日】2021 年 1 月 17 日（日）まで　　【場所】ふるさと文学者コーナー

◇◇企画展示「三島の弥生土器のフチとソコ」も同時に開催中！◇◇

三島市内で発掘された弥生時代の土器を展示しています。土器の縁（フチ）と底（ソコ）に注目し、文様などを間近で観察してみましょう。

※展示の解説は、図書館ホームページから動画で見ることができます。

① 弥生時代

210.27

『弥生時代の歴史』 棚８番

藤尾慎一郎／著　講談社　2015.8

水田稲作が九州北部で始まってから、近畿地方に定着するまでの 1200 年を弥生時代と定義し、弥生文化が日本列島に浸透していく通史がまとめられている。

210.27

『知られざる弥生ライフ－え?弥生土器なのに縄文がついたものがあるって本当ですか!?－』 棚８番　譽田亜紀子／著　大阪府立弥生文化博物館／監修

スソアキコ／イラスト　誠文堂新光社　2019.6

弥生時代の衣食住や祭祀、遺跡など、知っているようで知らない基礎知識について、イラストとともにわかりやすく紹介している。

② 考古学

202.5

『考古調査ハンドブック 12　弥生土器』 棚７番

佐藤由紀男／編集　ニューサイエンス社　2015.5

弥生土器研究の現状と課題がまとめられている。各地の弥生土器及び並行期の土器群についても収録されている。

498.5

『佐原真の仕事 2　道具の考古学』 閉架書庫

佐原真著　金関恕・春成秀爾／編　岩波書店　2005.5

土器・石器・瓦などを題材として、古代の技術や道具の系譜、変遷について、主に文化史的立場から細やかに観察した論考が収録されている。

③ 三島の歴史

K212.3
ミ

『三島の成り立ち －原始・古代～中世－［第２版］』 棚 65 番

三島市郷土資料館／編集　三島市教育委員会　2004.3

三島の原始から中世までの変遷を時代ごとにまとめている。

K212.3
ミ

『三島のあけぼの －テーマ展三島の埋蔵文化財展－』 棚 65 番

三島市郷土館／編集　三島市教育委員会　1986.4

発掘された三島の遺跡を時代ごとに紹介している。

④ 遺跡・発掘調査

K202
123
コ

『米作りのムラ －奈良橋向遺跡・西大久保遺跡－』 棚 64 番

三島市教育委員会　1994.3

日清プラザ建設に伴う発掘調査の概要がまとめられている。この調査で、弥生時代後期から古墳時代前期の集落の跡と水田跡が同じ遺跡から発見された。遺物として弥生土器等が発見されている。

K202
22
ト

『登呂遺跡と弥生文化 －いま問い直す倭人の社会－』 棚 65 番

大塚初重・森浩一／編　小学館　1985.7

弥生時代の農耕村落の代表例となる登呂遺跡発見から 40 年を記念し開催された、シンポジウムの記録集。研究の成果がまとめられている。